



2005～2006年度国際ロータリー第2650地区

大久保 昇ガバナー公式訪問

-2005. 9. 28-

ただいまご紹介いただきました、ガバナーの大久保昇でございます。

本日の公式訪問にあたりまして前川重雄会長さん、中田一市幹事さんをはじめ会員の皆さんから暖かい歓迎を受けまして感激しております。

丸岡RCは、福井RCをスポンサーとして、1978年に誕生。今年度創立28年を迎えられる、歴史と伝統あるクラブでございます。その間に、1996年と1980年にはIMのホストを勤められ、地域の発展のために大きな貢献をなさってこられました。また、島原南RCと姉妹締結、三国RC・山中RCと友好締結され会員の相互訪問を通じ理解と積極的な交流を深められています。

貴クラブの「丸岡城の桜の植樹」「地元高校生への就職模擬面接」や「学校周辺のカーブミラー清掃奉仕活動」「ボランティア祭りへの参加」は地元密着で、地域の人々のロータリーへの理解につながる素晴らしい取り組みで、その成果は新聞にも報道されました。今年度はRI会長も当地区も広報強化を強調事項としてあげて途復す。今年も、奉仕活動の成果を報道機関に積極的なPRをお願いします。

アッセンブリー資料を読ませていただいても、各人がそれぞれの担当に対して、真摯に取り組んでいらっしゃる様子が見てとれます。会員一人一人が当事者意識をお持ちでいらっしゃる事の現われだと感じます。心から敬服します。また貴クラブのホームページは、タイムリーに更新されており、内容もとても充実していると感心しております。

「ロータリーの原点に帰ろう～地域密着のロータリーに～」をテーマに

1. 文化、スポーツを通しての青少年育成事業
2. 地域における国際事業
3. 献血運動推進事業
4. 環境問題に対する事業

を重点目標とされ、歴史と伝統を誇る丸岡RC会長の重責を担われた前川会長に心より敬意を表します。

あらためまして、本日この場をお借りしまして伝統ある丸岡RCの会員の皆様の前でスピーチをさせていただく機会をいただき、あつくお礼申し上げます。

公式訪問でのガバナーアドレスはRI会長の今年度のテーマ並びにその方針を皆さま方に説明して、あわせて、ガバナーの活動方針と強調事項をお知らせすることを公式訪問の目標としております。

まず最初に、2005-06年度RI会長カール・ヴィルヘルム・ステンハマー会長のプロフィールですが、スウェーデンの出身。フィンランドから米国はもちろん、アフリカに到るまで広範囲な活動をなさってきた生粋のロータリアンであります。数々の委員長を歴任され

ております。奥様のモニカさんもご主人同様熱心なロータリアンであると同っております。

次にRIテーマについてでございますが、「超我の奉仕ServiceAbove Self」です。カール・ヴィルヘルム・ステンハマー会長は、このテーマは1911年、アーサー・フレデリック・シェルドンが語った言葉「最もよく奉仕する者、最も多く報われる」がロータリーの標語として採択され、さらに、フランク・コリンズの言葉「無我の奉仕」をこれに付け加えて最終的な標語となったものです。

私たちがロータリーの第2の百年の第1章を書き始める2005-06年度テーマとして、「超我の奉仕」を選ばれました。このテーマを選ばれたのは、ロータリアンを鼓舞する最も意義深い言葉を使いたいという会長の願望を反映しています。

また、ステンハマー会長エレクトのスピーチの中で、特に強調されたのは次の4点でした。

(1) 「継続性」「協力」「連帯」「識字率向上」「教育問題」「水保全」「ポリオ撲滅」

1つ目は、「継続性」「協力」「連帯」です。識字率向上と教育問題を例に、この2つの問題は過去から継続して解決に努めなければならないが、水・保健の問題も含めてロータリー以外の組織とも協力関係も結ばなければいけないと説かれました。この「継続性」という方針を示されたのは、初めてのことだと思います。過去100年と101年以降の「かけ橋」と受け止めております。

(2) 広報強化

広報活動に力を入れ、一般の人々の目に留めさせる。ロータリーの公共的イメージを高めることが重要であると説かれました。



(3)会員の増強をはかること

各クラブは会員1名かそれ以上の純増を達成するために、会員勧誘計画を立て実施する。また、女性会員を増やす必要があるとも力説されました。ステンハマー RI会長もクラブに新風を吹き込むために、女性会員の増強を強く訴えられましたが、世界人口の比率は男性48対女性 52 で女性が多いのに、ロータリーは120万人のうち女性は14万4000人しかいない-つまり、10%ちょっとに過ぎない。RI でも重要な委員会の委員長には女性をあて、ゆくゆくはRI会長が女性であってもおかしくないと話されたときは会場で拍手が沸き起こりました。ちなみに国際協議会に 529 名のガバナー参加者中、女性は66名でした。ロータリーも率先して女性会員獲得に取り組むべきだと思います。また先日のシカゴでの国際大会では、2005-06年度はロータリー新世紀の第1年だが、これを「ロータリー女性年」にしたい、と述べ、女性会員の増強には特に力を入れていく所存を明らかにするとともに、女性としてはじめてキャロリン・ショーンズさんが財団の管理委員になったことは、女性重視の象徴である、と語りました。

(4)また、ステンハマー会長は青少年プログラムの拡大にも力をそそぎたいと話されました

私達はこのようなステンハマー会長の方針に呼応して、ロータリーの第2世紀目の第1ページにあたる 2005 06年度を「かけ橋の年」と名付けたいと思います。それは、過去の100年と来るべき新世紀を結ぶ「かけ橋の年」であり、孫挑続は力なり」といわれるように、

われわれが営々と続けてきた様々な奉仕活動を力強く持続するとともに、地域社会のニーズに鋭く応えていく「行動するロータリー」でありたいと思います。

続きまして、地区全体の活動方針「かけ橋」を具体的にお話します。

テーマロゴ「かけ橋」について

このテーマロゴを表す「かけ橋」はつり橋をデザインしました。四つの府県をつなぐかけ橋でもあります。地区ロゴ、「流水文」は水の流れる様子を文様化したもので、RI第2650地区の京都・奈良・福井・滋賀の4府県は水でつながっていることを表現しました。4色のカラーはそれぞれの府県のイメージを表しています。京都=山紫水明の紫、奈良=若草山の緑、福井=朝日の朱(しゆ)、滋賀=琵琶湖の青です。今後いろいろな場面でこの地区ロゴを使っていただきたいと思います。

1つは、クラブと地域社会にかける「かけ橋」であります。

地区内の各クラブが取り組む奉仕活動に、地域社会の共感と賛同の「かけ橋」をかけることが極めて重要です。そのためには、地区とクラブ、またクラブとロータリアンが強固な「かけ橋」で結ばれる必要があると思います。またロータリーの奉仕活動の基礎となるのは職業奉仕です。自己の職業を通じていかに社会に奉仕しているか?をいつも問いかけていただくことが「私と社会のかけ橋」になると思います。

2つ目は、委員会と委員会の「かけ橋」があります。ロータリーは国際交流、国際青少年交換、新世代(RYLA)、ローターアクト、インターアクト、国際親善奨学生、GSE、米山奨学生、など国境を越えた「かけ橋」を構築し、様々な国際交流・国際奉仕活動を実施してきました。これを各委員会が横断的な活動を実践していただき、拡大発展していただきたいです。

3つ目は、ロータリーと他団体との「かけ橋」です。ステンハマー会長はスピーチの中で、ロータリーだけでできることには限界がある、今後は同じ目標を持って社会貢献・国際貢献に取り組んでいる他の団体や様々な組織とのコーディネーションをはかるようにと言われました。2650地区では、これまでポリオ・プラスでWHOやJAICAと協力して大きな成果をあげてきました。NP0やNGOなど同じ目標を持つ、団体と交流を図るための「かけ橋」をかけることも重要だと思います。

4つ目は、ロータリーと各種のメディアとの「かけ橋」についてです。ステンハマー会長は「ロータリーの公共的イメージアップ」つまり、広報強化を強調されました。ロータリーの広報の対象は必ずしも大きなマスメディアとは限りません。地域の広報誌やさまざまな団体のパブリケーション、諸機関の刊行物やミニコミ誌なども重要なメディアです。これまで、あまり接触の無かった機関や団体にもアプローチして「かけ橋」を築きましょう。そしてロータリーの奉仕活動の輪を広げていきたいものです。

5つ目は、若者とロータリアンの「かけ橋」です。例えば、ローターアクトの勉強会でロータリアンと若者が、地域社会や世界の問題についての理解や認識を深める中で、次代のリーダーを育てる機会にしたいと思います。

6つ目は、国際間の「かけ橋」です。今年度は、6月11日~14日までスウェーデンとデンマークで国際大会が行われます。その機会に外国のロータリアンとも親交を深めてくださることをおすすめします。さらに海外姉妹クラブとの交流もより活発に行っていただきたいものです。

7つ目は、ロータリーと各種のメディアとの「かけ橋」についてです。日本ではとかくPRというのは「あの人はPRがうまいから…」などとネガティブな意味に使われることも多いのですが、組織や企業の活動を「できるだけ正しく、広く、伝達するコミュニケーション」というのが本来の意味です。私が打ち出しました方針のひとつは、ロータリー関連部署のかけ橋はもちろんのこと、ロータリー以外のさまざまな機関、組織体、企業などとの「かけ橋」をかけ、その活動を何倍にも何十倍にも膨らまそうという「ブリッジ(橋)」構想ですが、これを実現させるには、どうしても広報の充実が必要になります。そして、ロータリーの公共的イメージの向上をめざしてください。



次にガバナーの強調目標につきまして、その主なるものについて申し上げます。

(1)会員の増強

アナハイムで元RI会長のグレン・キンロス氏は、講演の冒頭で、「ロータリーの中で一番重要なことは何でしょうか?ロータリーの精神でしょうか?ロータリーのプログラムでしょうか?それとも、ロータリーの国際性でしょうか?」と問いかけられました。「...今あげられた3つに順位はありません。そのどれもが重要です。3つそれぞれがロータリー活動の全体を形成しています。しかし、この3つは、どれも会員に依存しています。ロータリーのもっとも重要な要素は会員です。会員があってこそ、ロータリーが望むことのすべてが可能となるのです」と会員を増やさなければロータリーが成り立たなくなると話されました。

われわれ2650地区の会員数は1996年度、6705人から、現在(4月末時点)は、5362人で残念ながら最盛期に比べれば1300人強落ち込んでいます。なぜ会員が減るのか?キンロス氏は会員を辞める理由の22%は所属するクラブのプログラムやプロジェクトへの不満です。

つまり活動がおもしろくないために辞めていくのだと言われました。大切なのは、会員に「参加する意欲」を起こさせるプロジェクトを企画し実行することです。

また、ロータリー100年の歴史を引き継いでもらう若い世代の会員獲得も、緊急の課題です。若い世代が入会を断る理由に、時間的・経済的制約があげられます。これらに対応する為に、夜間や早朝の例会を計画するクラブや低会費のクラブを創設するのも一つの方法だと思えます。新たな発想で新クラブの創設(会員拡大)をご検討ください。

(2)広報強化(ガバナー月信)

また、ロータリアン内部広報としてのガバナー自信ですが、国際ロータリーと地区、さらに各クラブ・ロータリアンとを結ぶための情報誌であり、「かけ橋」となって相互交流を図ることが重要かと思えます。また各号の表紙には、ロータリアンから募集しました、写真絵画等を掲載しておりますので、皆様のご応募を何とぞよろしくお願い申し上げます。

(3)四つの奉仕

「クラブ奉仕」

ロータリーの第1奉仕部門、クラブ内の充実についてです。これは会員増強・大会防止にもつながります。クラブ内の充実には例会に出席することが基本であります。クラブの親睦に加わることで、クラブの楽しいプログラムに参加することで、日々多忙な仕事に追われているロータリアンが心のやすらぎ、息抜きの出来る場。ピジターはさしのべられた歓迎の暖かさ、示された友情を忘れることができないような例会にさせていただきますようよろしくお願い申し上げます。

「職業奉仕」

職業奉仕は、基本的にロータリアンが「超我の奉仕」の理念に基づき、高い職業倫理を実現していこうというロータリークラブ原点ともいえる活動です。皆様方も、自分の職業を通じて社会や地域等に様々な奉仕活動を実践されていることと思います。その事例を集めて、自信・インターネットで紹介し、事例集を作りたいと考えています。「私の職業奉仕」という事例をお寄せください。

「社会奉仕」

ステンハマー会長は特に、水資源の管理の問題を強調され、世界人口の4割にあたる26億人が、きれいな水へのアクセスができないと言われました。我が2650地区をつなぐ共通の要素は水です。確かに、ステンハマー会長の言われるような汚い水の問題は日本に少ないかもしれませんが、しかし、今ではどの家庭でも水道の水を飲まずにボトルの水を冷蔵庫に入れてるように、水質はやはり大きな問題です。また、日本は食料資源の6割を輸入に頼っている以上、これらの農作物の生産国の水事情には強い関心をいだかねばなりません。世界の水資源管理は、ロータリーだけでは限度があるので、現地の様々な協力団体や人の協力が必要です。そのためにも、資金的な面で、ロータリー財団の資金をいかしましょう。

「国際奉仕」

ステンハマー会長はスピーチの中で、ロータリーだけでできることには限界がある、と言われ、今後は同じ問題に取り組んでいる他の団体や様々な組織とのコーディネーションをはかれと言われました。我々もポリオ・プラスでWHOやJICAと協力しましたが、こうしたNPOは数限りなく存在します。そのような団体に「かけ橋をかける」ことが重要だと思えます。

最後に、まとめて代えまして、会長賞の説明をします。

まずは、会員増強に関しまして、各クラブが会員1名以上の純増を達成していただかないといけません。会長賞授与には、この会員増強の項目は必須の条件で、今までお話しました、「公共的イメージ向上」「クラブ奉仕」「職業奉仕」「社会奉仕」「国際奉仕」、これら5分野の活動の中から少なくとも4分野、合計5分野で成果をあげたクラブを対象に、「RI会長賞」が選考されることとなります。

私は今年の2月23日、アナハイムではからずもロータリーの百年目の誕生日を迎え「Happy Birthday」を歌ってきました。これからのいよいよ次の新世紀が始まると思うと身の引き締まる思いがいたします。<かけ橋の年><行動するロータリー>をつくろう!この思いを胸に秘めて米国をあとにいたしました。これは、申すまでもなく、本日お集まりの皆様のお一人お一人の力を結集して初めて実現できることです。ステンハマー新会長が言われるように新世紀の1ページ目をどう書くか、我々の責任は重大です。しくじれば新世紀の方向がずれてしまいます。この席をお借りして、皆様のお力添えを切にお願い申し上げます。よろしくお願い申し上げます。



クラブ協議会

13:45 ~ 15:45

前川会長の司会進行にて各委員会の活動報告並びに質疑応答形式で始まりました。

山岸青少年交換副委員長

本年度は青少年交換に応募する生徒がいなかったのではやらない。という事ですが、出る国も行きたい子供も沢山いるのが応募がないという現状だと思います。なぜかといえはホストをする人がいないから名乗りを上げない。個人的な提案ですが、ホストは各県にクラブ順番で何クラブという風に方針を変更すれば、行きたいという子は沢山いるのではないのでしょうか？

池田ロータリー情報委員長

行事の継続事業について

ガバナーより 今までは単年度事業でしてきましたが、本年度より継続とい

う事が出てきました。2650地区ではポリオプラスで6~7年続けて、

ポリオを撲滅したとの実績があります 今の時代継続しなければなかなか目的が達成できない。医療だけでなく、水や識字でも同じだ と思います。グローバル的に達成しようとする継続していかなければ難しいと思います。

メディアへのアピール

ガバナーより 日本人は広告と広報を混同しているのではないかと。広告とはメーカーが自社の商品を自分の特徴を一方的に説明する。広報は自分が言うのではなく第三者の目を通して発信する。新聞記者の目を通したり、テレビのカメラマンの目を通し、ワンクッション置いて皆さんに伝えるというのが広報だと思います。ロータリーは今まで広報をしなかったからこれからはと思います。私はメディアへの架け橋と思い、新聞・テレビ・ラジオと機会があれば出演しています。

ガバナー訪問先 ガバナー月信 9月号 P.11に掲載しています。

2世会員の奨励・・・親子会員での経費の軽減・特典を示す。

丸岡 RC は青少年活動は活発に活動されていまして今後もご協力をお願いしたい。

ガバナー月信も例会時紹介をお願いしたい。



行事終了後
丸岡城見学されました。

